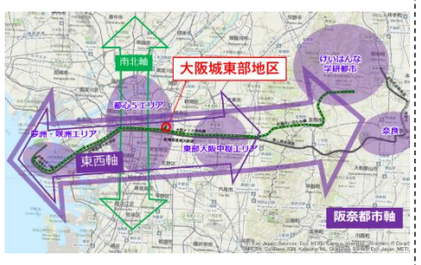
大阪城東部地区のまちづくりの方向性（2022年度版）【概要】

1. 大阪城東部地区の現況と動向

（1）地区の位置付け

- 「大阪のまちづくりグランドデザイン(案)（2022年 大阪府･大阪市･堺市）」では、大阪城・周辺エリアとして、にぎわい創出や回遊性向上を図り、観光・文化・学術・産業の融合エリアの形成をめざすとしている。
- 文化・観光・学術・交流機能の集積する、夢洲から関西学研都市に至る東西軸及び阪奈都市軸上に位置する拠点として当地区の重要性が高まっている。
- 当地区での魅力あふれる都市空間の創造等により、大阪・関西の成長・発展につなげる。



（2）地区のポテンシャル（外部要因）

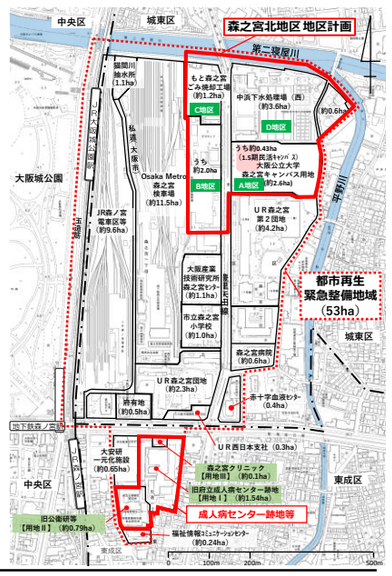
- 良好な交通至便性および、緑・舟運・にぎわいを有する大阪城公園と一体となったまちづくりにより、大阪を代表する拠点となり得るポテンシャルを有する。
- 大阪城公園周辺地域の回遊性向上、大阪城公園の豊かな緑・水辺空間と一体となったまちづくりにより、エリア全体での活性化が可能である。
- 京橋･OBP･天満橋駅周辺や河川･舟運事業等との相互連携をはかり、エリア全体の活力を創出する。

（3）地区内の現況と課題（内部要因）

- 低･未利用地、鉄道施設等の存在により、高度な都市的利用がなされず、大阪城公園と分断されているなど、地区のポテンシャルが活かされていない。
- 大阪城方面へのアクセスや、地区内の少子高齢化、生活利便系の施設不足等の課題解決が必要である。

（4）これまでのまちづくりの経過

時　期		内　容
2012年	6月	「グランドデザイン・大阪」策定（大阪府･大阪市）
2014年	12月	「府立成人病センター跡地等のまちづくり方針」策定（大阪府）
2020年	1月	「新大学基本構想」策定（大阪府･大阪市･公立大学法人大阪）
	9月	「大阪城東部地区のまちづくりの方向性」策定（大阪府･大阪市）
		「都市再生緊急整備地域」に追加指定
2021年	9月	「森之宮北地区地区計画」の都市計画決定（大阪市）
2022年	1月	「大阪城東部地区まちづくり関係者会議」設置（大阪府･大阪市･公立大学法人大阪･大阪メトロ･UR都市機構）
	3月	「イノベーションアカデミー構想」策定（公立大学法人大阪）
		「大阪城東部地区への民間活力導入に関するﾏｰｹｯﾄｻｳﾝﾃﾞｨﾝｸﾞ」結果公表
	12月	「大阪のまちづくりグランドデザイン」策定（予定）（大阪府･大阪市･堺市）



（5）地区を取り巻く動向

❶ 大阪公立大学森之宮キャンパスの整備

- 大阪府･大阪市･公立大学法人大阪の３者で「新大学基本構想」を策定
  - ⇒ 2025年度を目途に都心メインキャンパスを森之宮に整備
  - ⇒ 基幹教育、都市シンクタンク機能や技術インキュベーション機能の拠点他を配置、民間活力導入検討等
- 公立大学法人大阪が、「イノベーションアカデミー構想」を策定
  - ⇒ 森之宮キャンパスが「産学官民共創リビングラボ」の本部司令塔（ヘッドクォーター）を担う

❷ 新駅整備と歩行者空間整備

- まちづくりの具体化に向け、大阪府、大阪市、公立大学法人大阪、大阪メトロ、UR都市機構の地権者等で構成する関係者会議を2022年1月に設置
- 大阪メトロによる新駅の検討を踏まえ、駅前空間や水辺空間を活用した歩行者空間の整備等、地区のさらなるポテンシャル向上・課題解決に向け検討

2. 大阪城東部地区のまちづくりコンセプト及び戦略

コンセプト

大学とともに成長するイノベーション・フィールド・シティ

大阪公立大学を先導役にして、観光集客･健康医療･人材育成･居住機能等の集積により、多世代･多様な人が集い、交流する国際色あるまち

コンセプトを具体化する戦略・シナリオ等

1. まちにひらかれ、まちとともに成長する「次世代型キャンパスシティ」
- ･まちにひらかれたキャンパスシティ ･まちとともに成長するキャンパスシティ

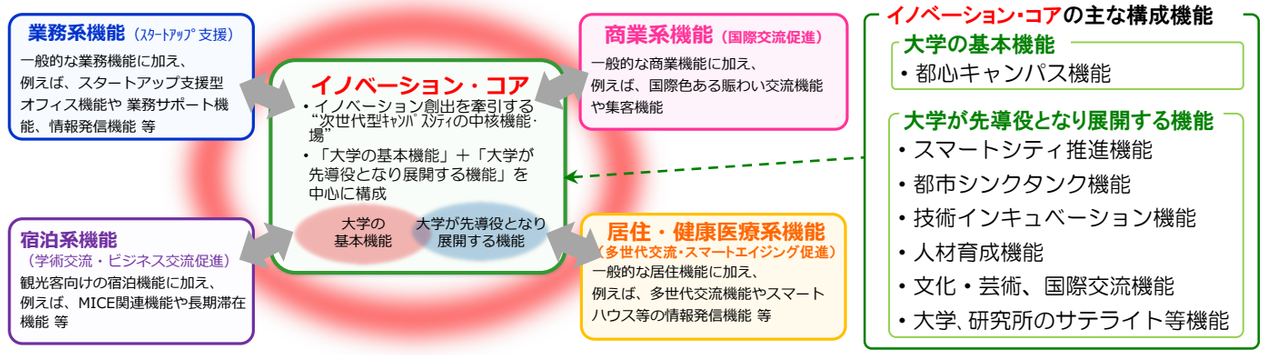
2. 健康医療･環境等の既存資源を活かした「スマートシティの実証･実装フィールド」
- ･スマートエネルギー、スマートモビリティ等の実証･実装フィールド
- ･スマートエイジングシティの実証･実装フィールド

3. 多様なひと、機能、空間、主体が交流する「クロスオーバーシティ」
- ･ひと ： 多様な世代、国籍、目的の人々(学生、住民、就業者、観光客）が集い交流するまち
- ･機能 ： 職住遊学などの多様な機能が重層的に集積し、互いに相乗効果をもたらすまち
- ･空間 ： 大阪城公園の緑や水辺空間と一体的に、公共的空間と民間空間が調和した、デザイン性のあるまち
- ･主体 ： 産学官民の多様な主体が連携し、エリアマネジメントを展開するまち

3. コンセプト及び戦略を受けての展開イメージ

（1）次世代型キャンパスシティの展開イメージ

① 次世代型キャンパスシティの中核機能･場を「イノベーション･コア」と位置付け
② 「イノベーション･コア」は「大学の基本機能」＋「大学が先導役となり展開する機能」を中心に構成
③ 「イノベーション･コア」を中心に、新たなイノベーションが誘発されるよう多様な機能を集積･連携



（2）スマートシティの展開イメージ （極力早期に取組みを検討したいテーマ例）

① **モビリティ** ：・スマートモビリティを活用した主要ターミナル等からの地区内アクセス確保について検討
② **ヘルスケア**：・大阪公立大学立地を契機に、森之宮地区で推し進められているスマートエイジング･シティの取組みの拡充を検討
・地域のコミュニティやスマートホスピタルと連携するウェルネススマートシティを市民と共創

（3） クロスオーバーシティの展開イメージ

① **ひと** ：・住民・就業者だけでなく、大学関係者や観光客など新たな“ひと”の交流を促進
② **機能**：・イノベーション・コアを中心に、多様な機能が交流･連携しイノベーションを誘発
・鉄道施設や下水処理場等の上部利用などにより、重層的な土地利用促進を検討
③ **空間**：・大阪城公園の緑や親水空間と一体的な、緑豊富な空間や水辺空間の形成検討
・大阪城公園全体の眺望及び大阪城天守閣への眺望に配慮した景観形成の検討
・デザインマネジメントの検討（公共的空間と民間空間との調和、民間施設のデザイン性の確保を促す）
④ **主体**：・都市シンクタンク機能の形成検討（イノベーション･コアを有効に機能させるための産学官民連携組織）
・エリマネ組織の形成検討（地区の価値向上のため、地権者を中心に、住民･就業者･学生等も参画する組織）
・エリマネ連絡会の形成検討（OBP･大阪城公園･京橋周辺等のまちづくりと連携して活動するための組織）

4. 土地利用・基盤整備計画

（1）基本的な考え方　：充実した交通インフラや大阪城公園に隣接した立地特性を活かし、キャンパス整備に加えて新駅整備や歩行者空間等の整備により、さらにポテンシャルを向上させるとともに、スマートシティの実証・実装フィールドとしての取組みを展開しながら、東西軸の拠点に相応しい土地の高度利用と良好な市街地環境の形成を図る。

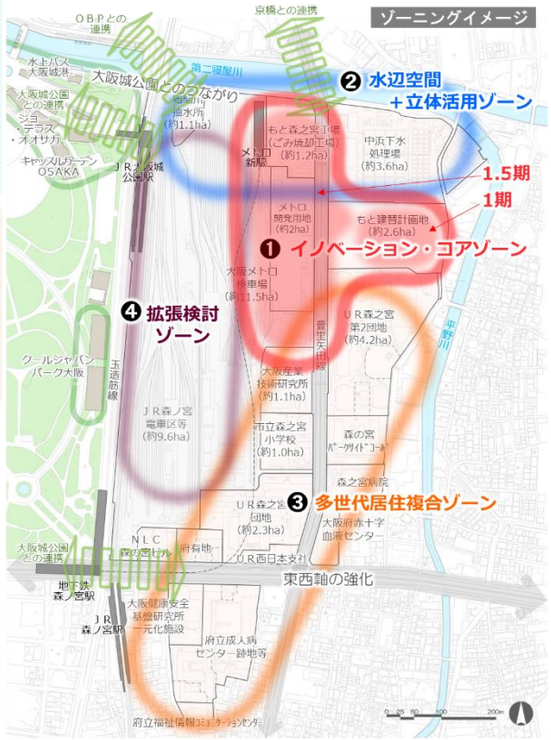
（2）土地利用計画　～ゾーニングの考え方～

❶『イノベーション・コアゾーン』
- １期としては、土地の高度利用を図りながら、まちに開かれた大阪公立大学の都心キャンパスを整備する。
- 1.5期開発として、メトロ新駅や、民間活力を導入し、駅前にふさわしい土地の高度利用を図りながら、大学関連施設をはじめ多様な交流・連携機能等の確保を図る。

❷『水辺空間＋立体活用ゾーン』
- 水辺空間を活用し、イノベーション・コアゾーンと大阪城公園を連続的につなぐ快適な歩行者空間やにぎわい空間の創出を図る。
- 下水処理場の更新時には、上部利用等の立体的な土地の高度利用を図る。

❸『多世代居住複合ゾーン』
- 健康医療機能等と連携し、スマートエイジングシティの取組みを展開しながら、多様な世代が健康で安全に住み続けられる、商業・業務なども含めた住環境の実現を図る。

❹『拡張検討ゾーン』
- 当面は鉄道施設として継続利用し、将来的には、社会動向や地区内のまちづくりの動向を踏まえ、上部利用範囲の拡や土地利用転換等も検討する。



（3）基盤整備計画

方針：利便性・快適性・安全性に優れた歩行者重視のまちづくり

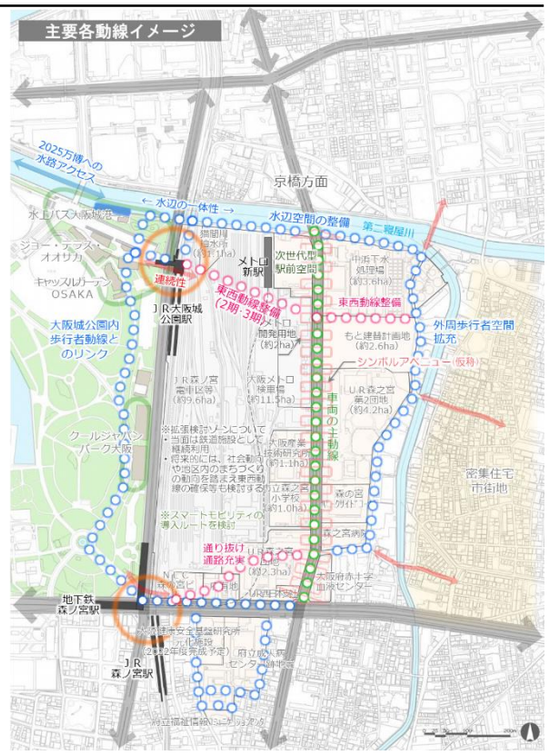
＜歩行者空間について＞

❶ 利便性の向上
- 将来の交流・定住人口の大幅な増加を見据え、鉄道駅と地区内を円滑に繋ぐ歩行者動線の確保を図る。

❷ 快適性の向上
- 大阪城公園や河川空間に接する立地を活かし、水・緑の空間を楽しく回遊でき、健康増進にも資する歩行者動線の確保を図る。
- シンボルアベニューの豊里矢田線はじめ、大阪城公園の緑や水辺空間と一体的に公共空間と民間空間が調和したデザイン性や高質な都市空間を備えた歩行者空間の形成を図る。

❸ 安全性の向上
- 歩行者空間の拡充や、密集住宅市街地から大阪城公園へ至る複数の避難ルートの確保など、交通・防災の両面で安全性向上にも資する歩行者動線の確保を図る。

＜スマートモビリティ導入について＞
- スマートモビリティの導入を検討し多様な移動手段により、地区内のアクセス向上を図る。



5. 想定される開発の進め方

１期開発（～2025秋）　／　**1.5期開発（～2028春）**　／　**２期・３期開発**
※イノベーション・コア等が先行立地する優位性を背景に高度利用や機能更新を図る

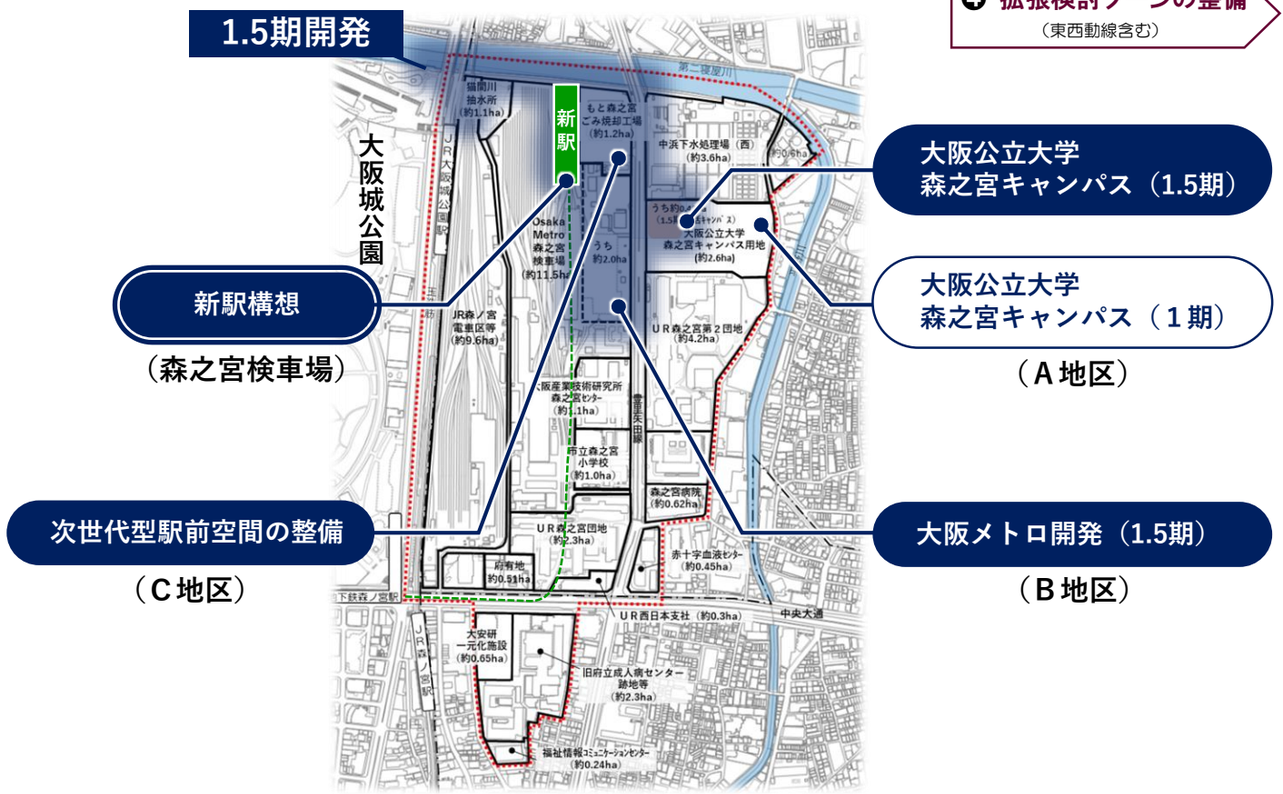
❶ イノベーション・コアの整備
- 1期 都心キャンパスの整備
  - ・設計、建設工事、開所
- 1.5期の施設整備
  - ・民活キャンパス、B地区、C地区の設計、建設工事、完成
- 新駅整備
  - ・設計、建設工事、開業

❷ 水辺空間＋立体活用ゾーンの整備

❸ 多世代居住複合ゾーンの整備

❹ 拡張検討ゾーンの整備（東西動線含む）

【参考】1.5期開発について



6. 取組みイメージ

対象ゾーン	取組みの主な内容
全ゾーン共通	○地区内の土地の高度利用を図る手法の検討 （例）都市再生緊急整備地域における容積緩和の特例措置、都市計画手法等の活用 など ○エリアマネジメント組織の形成に向けた検討 ・地権者や有識者等を交えた地区内のエリアマネジメント組織 （契機となる初動的な取組み：デザインコントロール、エリアプロモーション等） ○周辺地域と連携したまちづくりの展開の検討
イノベーション・コアゾーン	○スマートシティ戦略推進のため大阪公立大学主体のデータ連携プラットフォームの形成検討 ○都市シンクタンク機能にかかる検討【府・市・大学法人合同プラットフォーム、（仮称）大阪森之宮リビングラボ】 ○大学のキャンパス整備にかかる民間活力導入手法の検討 ○東西動線の確保に向けた整備手法等の検討
水辺空間＋立体活用ゾーン	○水辺動線の整備手法等の検討 ○下水道施設の立体的な土地利用の検討
多世代居住複合ゾーン	○連鎖型都市再生の検討 ○成人病センター跡地等の活用に向けた検討
拡張検討ゾーン	○東西動線の確保に向けた整備手法等の検討

※本方向性は、社会経済情勢の変化や課題に対応しつつ、PDCAサイクルを実行しながら、適時バージョンアップを行う